



東中学校 学校だより



2月号(令和7年2月14日発行) 学校HP

TEL 042-471-2765 FAX 042-472-7995

「絆」

副校長 西田 知之

3年生は現在、自分自身の進路決定に向けて、一人ひとりが不安や心配と戦っているところです。一方で、中には既に推薦の試験などで進路が決定している人もいます。クラスにはいろんな立場の人がいる中で、何となく気持ちが落ち着かない人もいるかもしれません。既に進路が決まっている人は、気持ちが楽になっている人もいるでしょうし、逆にこれから受験を迎える人はどんどん進路が決まっていく周りの様子に焦りを感じている人もいるでしょう。

世の中は「VUCAの時代」と言われています。「VUCA」とは「先行きが不透明で、将来の予測が困難な状態」を意味しています。筆者が中学生の時、世の中を揺るがすような大地震が起こったり、疫病が流行ったりすることは予想がつかせませんでした。しかし、東日本大震災や能登半島地震のような大地震や津波が日本を襲ったり、新型コロナウイルスが流行して学校が一斉休校し、ソーシャルディスタンスを余儀なくされたりすることが実際に起こりました。みなさんが中学校を卒業し、これから何年も生きていく中で、予想だにできなかったことが起こることは十分ありうることです。

そんな「VUCAの時代」を乗り越えていくために、必要なことは何でしょうか。東日本大震災が起きた2011年、「絆」という言葉が日本中にあふれたと言われています。そもそも、この「絆」という言葉は家族の絆という意味合いで新聞などに使われることが多かったのですが、東日本大震災が起きてから、新聞各紙で「絆」「きずな」「キズナ」「きづな」「kizuna」という言葉が使われた記事数を調べたところ、前年に比べて倍増していたそうです。大学の先生の分析によると、「身近な結びつきを示していた『絆』という言葉が、震災という過酷な状況で、支援意識を象徴し、社会性を帯びた意味合いに変わった」と分析しています。それぞれが置かれている立場が違う中で、過酷な状況を乗り越えるための支えの一つとして「絆」という言葉が使われていたのではないのでしょうか。

3年生の皆さんが、進路決定という困難を乗り越えるためには、この3年間で皆さんが築きあげてきた「絆」がここで試されるのだと思います。「受験は団体戦である」という言葉も聞いたことがあるかもしれません。既に進路が決まっている人たちは、これから戦う仲間を励まし、いろいろな手段で支えてあげる、これから進路を決める人たちは、応援してくれる仲間の声を信じて、未来の自分を信じて今を踏んばる。今、校舎2階には、1、2年生と先生方が、受験を迎える3年生のために、熱い応援メッセージを掲示しています。もちろん、これも3年生の皆さんを、1、2年生が支えようとしている「絆」の一つであると思います。是非、この困難を東中みんなで乗り越えてほしいと願っています。



〇2 学年・高校の先生のお話を聞く会

1月10日(金)に2学年では高校の先生のお話を聞く会が行われました。当日は都立小平高等学校、都立練馬工科高等学校、私立豊南高等学校の3校の先生に来校していただき、クラス毎にそれぞれの高校の特色や2年生に向けてのアドバイスを話していただき、みんな真剣に聞き入っていました。キャリア教育の一環として入試制度について調べ学習も行い、3年生の0学期が進められています。



〇3 学年・社労士による出前授業

1月31日(金)、3学年では、社会保険労務士の方からお話を聞く授業が行われました。社会保険労務士という職業を知らない生徒がほとんどでしたが、中学校を卒業するとアルバイトをする人もいます。社会で働くうえで大切なことや気を付けることを、専門の知識をお持ちの方から学びました。



〇1 学年・スキー教室

2月2日(日)~4日(火)、1学年は菅平高原へスキー教室に行ってきました。中学生になって初めての宿泊学習でしたが、各自が自分の役割をしっかりと果たして実り多いスキー教室になりました。3日間で多くの生徒がスキーを楽しめるように上達しました。宿舎でのレクも大盛り上がりで学年の親睦も深められました。



〇2 学年・笑顔と学びのプロジェクト

2月7日(金)、笑顔と学びの体験プロジェクトの一環として、テノール歌手の西村悟さん、ピアニストの中村美貴さんをお招きし、歌の独唱と歌唱指導をしていただきました。合唱コンクールに向けてとても参考になる授業となりました。

